



© UNICEF/NYHQ2012-1822/Bindra

マリ西部。栄養不良やマラリアにかかっていないか、子どもたちに検査を受けさせるために並んで待つ女性たち。ユニセフは、サヘル地方の女性と子どもたちの健康改善のために、いろいろな NGO と協働しているが、ユニセフが支援するこの国内 NGO は、村で月 2 回の検査を実施している。

難題に立ち向かい、 立ち直る力を育成する

2012年、ユニセフは、79カ国で起こった286件の様々な規模の緊急事態に対応し、世界でも最も困難な状況で生きる子どもたちやその家族に対して広範な支援を行いました。

ユニセフは人道支援活動や開発プログラムの実施に当たり、コミュニティをエンパワーし、社会的サービスの提供やセーフティ・ネットの強化を図り、自然災害・紛争・その他の危機による精神的打撃を乗り越える力を育成することで、子どもたちや家族が立ち直るのを支援してきました。

危機により影響を受けた人たち

武力紛争と政情不安が継続、あるいは激化したため、アフガニスタン、中央アフリカ共和国、コロンビア、コンゴ民主共和国、マリ、ミャンマー、パキスタン、ソマリア、南スーダン、パレスチナ、スーダン、イエメンの各国において、政治的・社会的混乱に巻き込まれた家族には抗しがたい難題が残されました。

シリア国内の混乱や近隣諸国に影響を与えている難民増加の問題は、いずれもトップニュースを独占し、人道支援の対象としても重要な部分を占めました。2012年、シリアでは国内で400万人近い人々が内戦の影響を受けましたが、そのうちのほぼ半数が子どもたちでした。また国外に逃れた別の100万人の難民も人道支援を必要としていました。このような不安定な状況が続く中、ユニセフはシリア国内及び近隣諸国において、教育・予防接種・子どもの保護をはじめとする支援を行いました。

ユニセフはパートナー機関と協力し、被災した7万9,000人の子どもたちが教育を継続できるよう支援し、140万人を超える子どもたちに対してはしかの予防接種を支援。推定4万7,000人の子どもたちに心理社会的なケアを行いました。ユニセフはまた、安全な水を避難キャンプとホスト・コミュニティの両方に提供し、10万人を超える人々に恩恵をもたらし、さらに医薬品・非食料品を含む冬用物資をシリア国内の26万3,000人超の人たちに提供しました。かつて起きた大惨事の教訓を踏まえ、ユニセフは、ヨルダンのアンマンにシリア支援のための拠点を開設し、シリア、エジプト、イラク、ヨルダン、レバノン、トルコでの支援を円滑に進めました。

11月のガザ地区での戦闘をはじめ、パレスチナにおける紛争の影響を受けた子どもたちや家族を支援するために、ユニセフは、医薬品・衛生キットの提供、上下水道や学校施設の修理、学用品の支給、心理社会的なケアの提供、迅速な評価とアドボカシー（政策提言）を実施しました。

2012年、
サヘル地帯では
92万人
を超える
5歳
未満児が
重度の
急性栄養不良の
治療を
受けました。

コロンビアの一部の地域の非政府系武装組織が起こした戦闘により、1月から9月までの間に推定3万5,000人の人々が故郷を離れて避難しましたが、うち53%が女性と女の子でした。避難した人たちの約79%はカウカ、チョコ、ナリーニョ、プトウマヨの人たちでした。ユニセフは、この行政区の9万3,000人を超える子どもたちに対し、包括的なケアを実施し、必要な支援物資やサービスを提供しました。

飢えとの闘い

アフリカ大陸全土に広がった食糧危機は2012年も続き、何百万人もの子どもたちの命を脅かしました。アフリカのサヘル地域では、推定110万人の5歳未満児が重度の急性栄養不良の危険にさらされ、南部アフリカではアンゴラ、レソト、マラウイ、ジンバブエにおいて600万人を超える人々が飢えに直面しました。食糧不足はアフリカの多くの地域ですでに常態化していたため、本格的な危機が広がる可能性が高くなりました。

2012年、サヘル地帯の9カ国（ブルキナファソ、カメルーン、チャド、ガンビア、マリ、モーリタニア、ニジェール、ナイジェリア、セネガル）は、洪水、コレラ、人口移動、マリにおける紛争によって一段と深刻さを増し、甚大な栄養危機に直面しました。

これまでに起こった様々な危機から得た教訓として、新たな危機が起きたときにコミュニティが立ち直る力をつけ、最悪の事態を避けるあるいは最悪の事態を少しでも緩和することが重要だというのが分かっています。例えば、ニジェールでは重度の急性栄養不良に対応するため、必須サービスの提供をあらかじめ基幹システムに組み込んでおいたのが役立ちました。

サヘル地帯では、2011年末に食糧・栄養危機に対する早期警報が出され、これに対する対応がなされました。2012年には、重度の急性栄養不良に陥っていたこの地域に住む92万人を超える5歳未満児が治療を受けることができ、この数は前年に治療を受けた子

どもたちに比べて30万人も上回っていました。この革新的な対策は、中期評価をもとに開発されたもので、「WASH in Nut」（栄養のための水と衛生）戦略と、発育不全に取り組むチームの結成と共に、これらのプログラム分野を効率的に統合したものとなっています。サヘル地域の5カ国での栄養危機に対する緊急支援策の中には、心理社会的支援も組み込まれました。ガーナのアクラ、カメルーンのドゥアラにある物資供給の地域拠点を利用することで、ユニセフは西部・中部アフリカ地域の数カ国に対して必須支援物資を迅速に提供することができました。これらの拠点が取り扱った援助物資の価格は、2011年の20万ドルから2012年の約100万ドルへと増加しました。

ソマリアでは、ユニセフが協力して、急性栄養不良の5歳未満児40万人（このうち約27万6,000人は重度の急性栄養不良に苦しむ子どもたち）が治療を受けましたが、この数は2011年の飢饉のときを上回りました。栄養補助食は、26万6,000を超える家族に配給されました。干ばつの被害を受けたケニアの各地域では、急性栄養不良に苦しむ約8万8,000人の5歳未満児が栄養補助プログラムの恩恵を受けました。エチオピアでは、ユニセフの支援により、重度の急性栄養不良に苦しむ32万8,000人近くの子どもたちが治療を受けました。

危機への対応

異常気象や自然災害に対しては、多くの犠牲者が出るのを防ぐために迅速な支援が必要になりました。2012年、世界各国のコミュニティが度重なる大災害に見舞われたとき、ユニセフは安全な水の復旧、衛生用品の提供、栄養不足の治療、教育の迅速なる再開、子どもたちや家族の保護の支援を行いました。

2012年11月、グアテマラで巨大地震が起き、家・橋・学校が被害を受けたのに対処し、ユニセフは予め同国に持ち込んでいた9基の浄水プラントのうち3基を使い、各避難所に水・衛生設備（トイレ）を提供し、9万1,000人以上の人たちを支援しました。ユニセフはまた、心的外傷を抱えた子どもたちに心理社

会的カウンセリングを行いました。8月にイラン北西部を襲った2回の地震を受けて、ユニセフは子どもの保護と心理社会的支援についての技術的な知識を提供し、緊急支援の専門スタッフを配置、政府の栄養評価の設計を支援しました。

子どもたちの間で慢性的な栄養不良が目立っていたタジキスタンで、ユニセフは生後6～24カ月の3万人の子どもたちと1万8,000人の妊婦に対して、微量栄養素のサプリメントを提供しました。また保健省を支援し、重度の栄養不良の子どもたち600人を治療、推定100人の保健ケア提供者に対して緊急時における栄養摂取に関するトレーニングを行いました。

パキスタンは3年連続して洪水に襲われ、約500万人の人々が影響を受けました。9月下旬にこの緊急事態が発生してから5日以内に、ユニセフは、洪水の被害を受けたバロチスタン、パンジャブ、シンドの各州の25万人を超える人々に毎日安全な飲料水を届けました。緊急事態のピーク時の3カ月間、約50万人の人々に毎日安全な飲料水を提供し続けました。

2012年、ユニセフの支援により、全世界の人道危機にある1,880万人を超える人々が一定水準の安全な水を利用できるようになりました。フィリピンの北ミンダナオ地域が、2011年12月に台風「ワシ」の被害を受けたとき、ユニセフは支援を続け、結果的に、約19万3,000人に清潔で十分な量の

飲料水を提供しました。2012年12月に台風「ポーファ」が襲ったとき、ユニセフは、4万5,000個の水・衛生キットを配布、39カ所で給水タンカーによる水の供給を行い、11万3,000人を超える人々を支援しました。2012年も終わりに近づいた頃、ユニセフは政府と協力して台風の被害の評価を行い、安全な水と衛生、教育、栄養、子どもの保護についてのサービスを元通りにする作業に着手しました。

ユニセフは人道危機が続く国々で、ゆるぎないパートナーであり続けました。栄養危機の真只中にあつたマリは、武力紛争によりさらに苦しい状況に追い込まれました。56万461人の学齢期の子どもたちを含む280万人を超える人々が影響を受けました。2012年、マリ北部の約35万人が故郷を離れ、安全を求めて南部や近隣諸国へと逃れました。人々が他の地域へと避難するに及び、教育、水、衛生、栄養、保健など、もともと厳しい状況にあつたサービスに大きな負担が加わりました。

ユニセフとパートナー機関は、故郷を追われた1万5,000人を超える学齢期の子どもたちや若者たちが、公式、非公式の基礎教育を受けられるよう支援しました。55万7,482人もの人々が石けん、浄水剤、その他の水・衛生設備（トイレ）、衛生維持に必要な物資を受け取ることができました。予防・対策キャンペーンがコレラの流行が始まる前にスタートし、コレラの抑え込みに一役買いました。

2012年、ユニセフの支援により、人道危機にある1,880万人を超える人々が一定水準の安全な水を利用できるようになりました。